

主 文
本件控訴を棄却する。
控訴費用は、控訴人の負担とする。
事 実

控訴代理人は「原判決を取り消す。被控訴人の請求を棄却する。訴訟費用は第一、二審とも被控訴人の負担とする。」との判決を求め、被控訴代理人は控訴棄却の判決を求めた。

一、被控訴人主張の請求原因事実は、原判決二丁裏末行の「権利証を持参し」を「権利証を持参し右権利証を交付し」と、同三丁表七行目「および」を「従つて」とそれぞれ訂正するほかは、原判決事実摘示のとおりであるから、これを引用する。

二、控訴人は請求原因事実に対する答弁として、
「被控訴人主張の請求原因一、二、四、五及び七（前記訂正引用にかかる原判決事実摘示記載の番号を指す。以下すべて同じ。）記載の事実はいずれも認める。同三記載の事実は不知、同六記載の事実のうち、被控訴会社がその主張の日に調査をしたところ、同日現在で訴外会社に対し一六五万三、五六八円を前渡金として過払いしていたことが判明したとの点は不知、その余の事実は否認する。

と述べ、なお抗弁として、
「被控訴会社の担当者は、請求原因五記載のとおりAと保証契約を締結するに際して、Aの代理人と称する控訴人が代理権を有するかどうかについて、Aに問合せをする等して確かめることをしていないが、若し上記問合せ等をしておれば、被控訴会社は当然控訴人が前記保証契約の締結についてAを代理する権限を有しないことを知り得たはずであるから、被控訴会社は、その過失により、控訴人に代理権がないことを知らなかつたものである。従つて、控訴人は民法第一一七条第一項所定の無権代理人の責任を負わない。」と述べた。

三、被控訴人は控訴人の抗弁に対し、次のとおり述べた。
1 被控訴人に過失があるという控訴人の主張は、これを争う。すなわち、請求原因五記載のとおり控訴人はAの夫であり、本件保証契約締結の際Aの実印とA所有の建物の権利証とを所持していたのであるから、被控訴会社の担当者が控訴人に上記契約を締結するについてAを代理する権限があると信ずるのは、当然であつて、控訴人主張のような過失はない。

2 仮りに、被控訴人に何らかの過失があるとしても、控訴人は、前記のとおり被控訴人に対しAを代理して保証契約を締結する権限があるものと誤信させ、この誤信に基づいて被控訴人をして叙上のとおり訴外会社に対し一六〇万円を出捐させたものである。そうして控訴人は、被控訴人からAに対する保証債務の履行を求める訴訟においては、Aの実印等を盗用した旨証言して、Aに対する追及を免がれさせておきながら、一方本訴においてもまた被控訴会社の過失を云為して、自己の責任をも免れようとしているのであつて、民法第一一七条第二項を根拠とする控訴人の抗弁は、信義則違反ないし権利の濫用として許されないところである。

四、立証（省略）

理 由

一、被控訴人主張の請求原因一、二、四、五及び七記載の事実はいずれも当事者間に争いがなく、右争いのない事実に、いずれも成立に争いのない甲第一ないし第三号証、同第一一、第一二号証、乙第一、第二号証、当審証人Bの証言によりすべて真正に成立したと認める甲第四ないし第一〇号証（枝番をも含む。）、同証人の証言、当審における控訴人本人尋問の結果（但し、後記措信しない部分を除く。）総合すると、家庭電気製品の製造販売を業とする被控訴会社が、家庭電気製品の組立製作を業とする訴外会社に対し、昭和四二年九月一二日、被控訴人主張のような約定の下に前渡金として一六〇万円を支払つたこと、その際控訴人はAの代理人として、訴外会社の被控訴会社に対する前渡金返還債務を一六〇万円を限度として保証する旨の契約をしたこと、上記保証契約の締結について、控訴人はAから代理権を授与されていたことを証明することができず、かつ、Aの追認も得られなかつたこと及び被控訴人が昭和四二年一〇月五日調査したところ、訴外会社に対し合計一六五万三、五六三円の前渡金が過払いであることが判明し、従つて前記一六〇万円は約旨に従い訴外会社においてその金額を直ちに返還すべきものであることが認められ、前示控訴人本人尋問の結果のうち右認定に反する部分は措信せず、他にこれに反する証拠はない。

右認定の事実によれば、Aの代理人として被控訴人と保証契約を締結した控訴人

このように、被控訴人が控訴人に代理権がないことを知らなかつたことが、被控訴人の過失によるものとは認められないから、控訴人の抗弁は理由がない。

三、 してみると、控訴人に対し、本件保証契約の履行として一六〇万円及びこれに対する弁済期日の後である昭和四三年一月一日から支払済みまで商事法定利率年六分の遅延損害金の支払を求める被控訴人の請求は理由があるから、これを認容した原判決は結局相当であつて、本件控訴は理由がない。

よつて、民訴法第三八四条、第九五条、第八九条を適用して主文のとおり判決する。

(裁判長裁判官 白石健三 裁判官 川上泉 裁判官 間中彦次)